

LPガス
人と地球にスマイルを

ちば炎の仲間

発行

社団法人千葉県LPガス協会広報委員会
〒260-0024 千葉市中央区中央港1-13-1
TEL 043-246-1725
FAX 043-243-6781
E-mail: chibalpg@chibalpg.or.jp
http://www.chibalpg@chibalpg.or.jp

毎月10日は保安の日

9月定例 常任理事会開催

【山川会長あいさつ要旨】

7月から8月にかけて各支部の会場で行いました保険契約の更改については、各支部長さんを始め、支部の皆様方には多大なるご支援、ご協力を賜り、滞りなく終了することが出来ました。

また、9月1日の九都県市合同防災訓練においては、秋元支部長をはじめ市川支部の皆様には、暑い中、ご苦勞様でした。

ここで御披露申し上げますが、来る10月23日の高圧ガス火薬類保安大会において、当協会の、吉田副会長(南千倉ガス)、島田常任理事(印旛支部長、マルキガス成田株)、大竹理事(三井プロパンサハラ株)が知事表彰を受けられることとなりました。誠にめでたうございます。

さて、本日の内容は、盛り沢山となっておりますが、中でも、当協会にとって、また、会員の皆様方にとって、重要な案件がありますので、ご検討の方よろしくお願いたします。

社団法人千葉県エルピーガス協会(山川宏協会長)は、定例9月常任理事会を千葉県ガス石油会館において9月13日(木)13:30より開催しました。

議事内容は、下記のとおりであり、全議事が承認されました。

議事終了後、青年委員会より福島県防災研修報告会(2頁に掲載)が行われました。

【議事内容】

議題1 臨時理事会及び臨時総会の開催について (審議事項)

臨時理事会及び臨時総会を来る10月11日(木)に開催し、次の4項目を上程することが承認される。(関連記事を2頁に掲載)

- 1 公益法人制度改革について
- 2 協会持分土地処分について
- 3 千葉県ガス石油会館建設資金預り金の返金と防災基金の創設について
- 4 役員一部選任について

一 鎌田敏賢氏(農協支部推薦理事)と小森毅氏(本部推薦理事)より辞任届が提出されたことにより、残任期間の理事として今関満氏と小川雅広氏を推薦することが承認される。

5 議長について (審議事項)

常任理事会案として島田隆氏(印旛支部)を臨時総会での議長として選出することが承認される。

議題2 平成24年度高圧ガス輸送車等防災訓練について (審議事項)

例年11月に開催されている標記訓練に際して、当協会が昨年実施した「LPガスの簡易炊き出し設備の展示とインスタントお汁粉の炊き出しと提供」が好評であったので本年度も実施要請があり、本年度から慣例として行うことが承認される。

このために協会でLPガスの簡易炊き出し設備を購入し支部へ貸し出すこととなる。

議題3 平成24年度千葉県高圧ガス火薬類保安大会について (報告・審議事項)

標記大会における各支部から推薦された協会長表彰候補者、優良事業所3事業所、優良従業員12名について、議場に諮り、表彰することについて承認された。

議題4 ブロック会議の開催について (審議事項)

来年の役員改選に向けてブロック会議の開催を依頼した。

議題5 平成23年度中の都市ガス、液化石油ガス等による事故状況について

保安講習会を開催

消費者に起因する事故減少に向けて!

「LPガス安全安心向上運動」の一環として、9月6日(木)に千葉県ガス石油館にて保安講習会を実施いたしました。

講師として経済産業省原子力安全・保安院 ガス安全課長・液化石油ガス保安課長の福田敦史氏が「最近のLPガス保安行政について」との演題で、最近のLPガス事故全体の状況、最近の一酸化炭素(CO)中毒事故の概要とその対応、平成24年度液化石油ガス販売事業者等保安対策指針等についての講演をいただきました。

また(一社)日本エルピーガス供給機器工業会 技術部長の井出登氏に「お客様に起因する事故防止や自然災害対策について」の演題でガス栓の誤

開放事故防止について事故原因、その対策について説明をいただきました。

最後にガス警報器工業会 専務理事の青木栄氏が「ガス警報器 設置・交換運動について」、設置・交換率を上げていただきたいとの話でありました。

なお、受講者数は120名でありました。



九都県市防災訓練実施



9月1日(土)第33回九都県市合同防災訓練(千葉県会場)が主会場を江戸川河川敷緑地(市川市)として実施されました。

訓練は東京湾北部を震源とする直下型地震の発生を想定し、会場訓練、市川市内の小学校での避難所訓練等を行い、九都県市と防災関係機関の連携協力体制を強化いたしました。市川支部の方に御尽力いただきました。

空家の充てん容器は必ず撤去しましょう

1 公益法人制度改革について

2 (業界の象徴である会館の解散と) 協会持分土地処分について

3 会館建設資金預り金の返金と防災基金の創設について

臨時理事会並びに臨時総会に諮る標記3項目について次に解説します。

1 公益法人制度改革について

公益社団法人向けの申請書を作成し、県総務部政策法務課公益法人室と打合せを行い、概ね公益へ移行することに問題ないことを確認したことから、公益社団法人と一般社団法人への移行のメリットとデメリットを比較し、どちらの法人で行くか、選択することになりました。

2 協会持分土地処分について

財団法人千葉県ガス石油会館は、一般財団法人への移行を検討していましたが、会館の老朽化が進み、毎年の多額の修理費により財政状況が逼迫して

いることから、3団体ではこれ以上の助成はせず、解散することとなりました。

従って、財団は建物を処分し、清算することになりますが、建物だけの売却は難しく、3団体持分の土地売却が求められています。

3 千葉県ガス石油会館建設資金預り金の返金と防災基金の創設について

会館と土地の売却ができた場合、昭和49年に会員の方々からお預りしている標記預り金を返金することを検討しております。

また、昨年7月に承認されている防災基金の創設に当たって、この会

館建設資金預り金を運用することを機を得たものとして検討させていただいております。

この防災基金は、次の5項目に使用させていただきます。

- (1) 避難所に指定された建物の冷暖房・給食施設へのLPガス供給設備設置費用の補助
- (2) 仮設住宅へのLPガス供給設備設置に対する補助
- (3) 防災要員の確保・派遣等の費用
- (4) 災害時における会員見舞金
- (5) その他、定款の定める目的達成のための減災及び防災対策に係る費用

また、募集した防災基金は、廃業等の場合には、お返し致します。

なお、臨時総会において防災基金の募集方法等が承認されましたら、後日会員の方々にご案内させていただきます。

24年度千葉県LPガス協会 青年委員会第1回研修 ～被災地南相馬を見て～

去る7月19・20日に青年委員会研修として福島県へ行って参りました。

主な目的は福島県青年委員会への支援金の贈呈と被災地の視察です。

昨年の東日本大震災において甚大な被害がでた福島県へ、すぐ青年委員会の幹事会等で支援金を送れないかと声上がり、当青年委員会が社会貢献事業として行っている廃棄メーター収集による収益金を活用させていただくこととなりました。

実際の被害やそこから立ち直りつつあるだろう姿を見て、地元千葉県においてこれからの防災・減災に生かすべく参考になるお話を聞かせて貰おうと研修の準備をしてみました。

初日に郡山エルピーガス保安センターを訪れ、自主保安が基本である千葉県ではあまり耳慣れない「保安センター」とはいかなるものなのか？そのメリットやデメリット等意見交換を行いました。その後郡山に場所を移し、福島県エルピーガス協会青年委員会との「合同防災研修会」を行いました。

研修会に先立ち、我が千葉県今関青年委員長から福島県今泉青年委員長へ支援金40万円の贈呈をいたしました。

研修会では震災当初の生々しい経験談や、いまだ続く原発事故の影響や風評被害と闘いながら復興へ向かう皆さんの声を聞くことが出来、大変貴重な経験が出来ました。翌日は、福島市からバスで南相馬に入り被災地視察を行

いました。

そこでは、いままでテレビや新聞等の報道で見聞きしてきた情報がほんの一部であることを思い知らされることになりました。

地元香取市も大きな被害を受けましたが、福島県の被害は段違いであり、そして福島第一原発事故の被害はまさに進行中であり、そこに暮らす人たちは、今なお被害を受け続けているのだということは今更ながら再認識させられました。

南相馬市に向かうバスで報道で幾度となく聞いた川俣町・飯館村をとおり抜けました。福島県協会事務局の和田専務が持っている線量計を皆に見せてくられながら「今2μです。あ、3μに上がりましたね。」と説明してくれました。米の販売業務で使う線量計を持参した青年委員が電源を入れると地元では見たこともない数値が表示され、それまで一度も聞いたことがなかったという「ピッピッピ」と言う警告音を耳にして改めて目に見えない放射線の影響を感じました。

その後バスで入ることが出来た福島第一原発20km圏内ではまさに想像を絶する光景が広がっていました。そこかしこに流されたであろう車が置き去りのまま、街道沿い(国道6号線)の店々や住宅はことごとく破壊され、ホームセンターは店舗前に商品が散乱したまま閉鎖されていました。

地元の皆さんが口々に言うのは、「自分らは放射能あびてっけども、ちゃんと生きてます、元気ですよ、福島は大丈夫です、」ということでした。



決して明るい表情ばかりではないのですが、地元根ざす人間の、なにか決意のようなものを感じました。

今回の研修で見聞きしたことについて、あまりに非日常すぎて自分のなかで消化しきれない事が多く、うまく文章にしたり説明することが出来ません。自分は何が出来なのか？被災地や原発事故についてどういふスタンスでいけば良いのか？あまりに大きい災害の前には結局何も出来ないんじゃないのか？と言う無力感もあります。

そんな中で一つ、心に残ったのは、福島青年委員の方が、地震直後の時はそれこそ自分の身を守るのが精一杯で他人を気遣う余裕は無かった、と言っていたことでした。それは、何かあったらまず自分が生き残ることが一番重要なことだろう、それが出来なければ、家族やお客様は守れない。そう、理解しました。

これからは、間違いなく近年起こるであろう地震をはじめとする大災害を心に置き、それに備えることが普通の日常となるような生活を送っていくことを考えることにしました。

そして「何か」が起こったとき悔いのない生き方をしたいと強く思います。

香取 教泰 記

お知らせ CHIBAちば コーナー

千葉県商工労働部 保安課 保安対策室

1 平成24年度高圧ガス保安活動 促進週間関連事業のお知らせ

県では関係事業所の防災意識の高揚や一般消費者等への啓発等を目的とした高圧ガス保安活動促進行事を下記のとおり実施します。皆さまのご協力・ご参加をよろしくお願いします。

(1) 空気呼吸器装着訓練

① 目的

毒性ガスによる災害事故が発生した場合に、事業所の従業員が適切な防災活動を行えるよう、空気呼吸器の適確な装着と迅速な作業方法の習得を目的とする。

② 日時

平成24年10月17日(水)
午後1時から

※ 荒天の場合は10月19日(金)

③ 場所

千葉県消防学校
(千葉市中央区仁戸名町666-2)

④ 主催

千葉県、千葉県高圧ガス地域防災協議会

⑤ 訓練方法

i 想定

液化塩素50kg入り容器のバルブが損傷し、塩素ガスが噴出したため、空気呼吸器を装着して容器に防災キャップを取り付け、塩素ガスの漏えいを防止した後、負傷者を発見し、担架で搬送する。

ii 訓練内容

1チーム2名で行い、保安帽、革手袋を装着した状態でスタートして、空気呼吸器を装着し、トンネルをくぐり、リング、防災工具を使用して容器に防災キャップを取った後、2名で担架を運ぶ。

(2) 高圧ガス輸送車等防災訓練

① 目的

高圧ガス輸送車の移動中における事故を想定して訓練を実施することにより、地域住民への二次災害の発生及び拡大を防止する処置を習得し、警察及び消防機関並びに防災事業所の協力体制を確立するとともに関係事業所の防災意識の高揚及び地域住民への啓発を図ることを目的とする。

② 日時

平成24年11月7日(水)
午後1時から午後4時まで

③ 場所

松戸市消防訓練センター
(松戸市八ヶ崎4丁目50番地の2)

④ 主催

千葉県、千葉県高圧ガス地域防災協議会

⑤ 参加機関

千葉県、松戸市、千葉県警察、松戸市消防局、千葉県高圧ガス地域防災協議会、社団法人千葉県高圧ガス保安協会、社団法人千葉県エルピーガス協会、千葉県冷凍設備保安協会、千葉県高圧ガス流通保安協会

⑥ 訓練項目

- i アンモニアガス漏えい時の処置訓練
- ii 空気呼吸器装着訓練
- iii 高圧ガスの実験
 - ア モノシランガス燃焼実験
 - イ 酸素による燃焼実験
 - ウ LPガス・カートリッジ等の破裂燃焼実験
 - エ アセチレン逆火実験
- iv 酸素・液化石油ガス輸送車防災訓練

(3) 千葉県高圧ガス火薬類保安大会

① 日時

平成24年10月23日(火)
午後2時から

② 場所

三井ガーデンホテル千葉
(千葉市中央区中央1-11-1)

③ 主催

千葉県、社団法人千葉県エルピーガス協会、社団法人千葉県高圧ガス保安協会、千葉県冷凍設備保安協会、千葉県火薬類保安協会、千葉県高圧ガス流通保安協会、千葉県冷凍空調設備協会

④ 表彰

千葉県知事表彰、社団法人千葉県エルピーガス協会会長表彰、社団法人千葉県高圧ガス保安協会会長表彰、千葉県冷凍設備保安協会会長表彰、千葉県火薬類保安協会会長表彰、千葉県高圧ガス流通保安協会会長表彰、千葉県冷凍空調設備協会会長表彰、

⑤ 記念講演

演題『日本人の危機管理』

講師 戸島 国雄 氏

(現タイ国家警察大佐元警視庁警部)

2 ガス漏れ警報器の設置の促進等について

経済産業省原子力安全・保安院が策定した「平成24年度液化石油ガス販売事業者等保安対策指針」に一般消費者等に起因する事故の防止対策として新たにガス漏れ警報器の設置の促進等の項目が追加されました。

社団法人千葉県エルピーガス協会が社団法人全国LPガス協会へ報告している「安全機器普及及び販売店1基1台運動等」調査報告書(平成24年3月末時点)によれば、共同住宅の設置率は86.8%(前年同期は89.8%)、一般住宅の設置率は54.3%(前年同期は66.0%)であり、いずれも前年よりも悪化しております。

については、LPガスの漏えいにより起因する事故の未然防止の観点から、ガス漏れ警報器の設置の促進及び期限管理(5年)に取り組むようお願いいたします。

3 住宅塗装工事等におけるガス器具の給気部又は排気部の閉そくによる一酸化炭素中毒事故の防止について

経済産業省原子力安全・保安院液化石油ガス保安課から平成24年8月3日付けで標記件名の通知がありましたので、県では、社団法人千葉県エルピーガス協会に平成24年8月21日付け保安第1405号で通知しました。

住宅塗装工事におけるガス機器の給気・排気部の閉塞による不完全燃焼や異常燃焼に伴う一酸化炭素(CO)中毒やガス機器の破損などのガス事故は、平成19年から平成23年の5年間で計56件(うち死亡1件、中毒2件、酸欠1件)発生しており、特に、平成22年は10件、平成23年は22件と増加の傾向が見られます。

つきましては、貴協会会員におかれましては、以下の内容を消費者に周知するようお願いいたします。

- ・ 塗装工事業者等がやむを得ずガス機器の給排気筒(煙突)・給排気口等の給排気設備や住居・店舗等の換気扇、通気・給気口等をビニール等で覆う場合は、そのままの状態ではガス機器を使用すると、ガス機器の異常や一酸化炭素(CO)中毒事故の発生につながる場合もありますので、ビニール等の覆いを取り除くまでは使用しないこと。

元気いっぱい、小学生親子が収穫体験！！

農協支部

J A全農ちばは8月28日、芝山町と成田市内(J A全農ちば営農技術センター)の圃場で、「第26回夏休み親子農業体験ツアー」を開催しました。

このツアーは次世代を担う子ども達に、農業への理解と関心を深めてもらい、千葉県が農業県であること、また千葉県で生産されている農産物を知ってもらい、新鮮な農産物を食べて元気に育ててもらいたいとの願いから始められ、今年で26回目を迎えます。今回は、千葉市、船橋市、浦安市、八千代市など千葉県内に住む小学生親子12組24名が参加し、厳しい暑さの中、元気いっぱいに、稲刈りと芋・ゴボウ・落花生掘りを体験しました。

参加した子供たちは、初めて使う『鎌』に緊張しながら、ひと株ひと株丁寧に、県産品種「ふさおとめ」の稲を刈り取り、芋掘りでは、親子で力を合わせ、大きなさつまいもを掘り当てようと、元気いっぱい収穫を楽しみました。



子供たちは「ゴボウ・落花生の収穫は初めての体験で掘るのは大変だったけど、とても楽しかった」「稲刈り、さつまいもの重さやゴボウの長さを競う大会、お米のクイズ、虫捕り、いろいろなイベントがあり楽しかった」と、初めての体験を喜んでいました。保護者は「日頃できない収穫体験をし、子どもたちの楽しそうな笑顔が見られて嬉しかった」「子どもたちの食育として貴重な体験になった」と話していました。

J A全農ちばは、全農グループの経営理念である「生産者と消費者を安心で結ぶ架け橋」となるべく、今後も地域の皆様方にこのような機会を提供していきたいと考えています。

当協会へ赤い羽根共同募金への協力依頼がありました。

ご協力いただける方は、下記募金会へお問い合わせいただきますようお願いいたします。

【第66回赤い羽根共同募金】

“あなたの募金は、あなたの町へ”

今年も赤い羽根共同募金が始まります。募金の約7割は、あなたのまちを良くするために使われています。みなさまのご協力をお願いいたします。

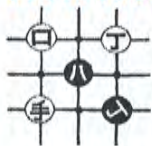
(運動期間 10月1日～12月31日)

◆ご協力メニュー◆

- * 赤い羽根自動販売機を設置する
- * 募金箱を設置する
- * ポスターを掲示する
- * 街頭募金に参加する
- * クオカード・図書カード・赤い羽根
バッジ募金
- * 使途選択募金<つかいみちが選べる募金>

【お問合せ】

社会福祉法人千葉県共同募金会
千葉市中央区千葉港4-3
TEL: 043-245-1721



大名の千葉県地図

私も大名の日本地図と言う本を読むまで、千葉県に十五もの藩があるとは知りませんでした。

まずは、大きい藩からですと佐倉藩、堀田家十一万石の城です。最初の城主は、徳川家康の五男武田(松平)信吉で次が家康の六男忠輝。それより以後佐倉は譜代大名が入り替わり、佐倉宗吾(惣五郎)事件などもあり、堀田家が藩主を勤めるようになります。幕末の英才とうたわれた堀田正睦は、藩士に一時金を貸したりして藩政改革に力をつくし、正睦の子正倫が最後の藩主です。

次は関宿藩、久世家四万八千石の城、家康の異父弟松平(久松)康元が二万石で入封し立藩。久世氏が最初に入封するのは、寛文九年(1669)。先祖は徳川譜代の家臣で、三河一向一揆に加わり、家康に叛乱し、許され広之の時五万石で藩主となった。最後の藩主広文のとき、戊申

戦争がおり、藩内が佐幕と尊王に分かれ、新政府に抗う藩士が出たりして滅封され、広文の弟広業のとき四万八千石となった。

久留里藩三万石の城。天正十八年、家康の関東入国にともない、大須賀(松平)忠政が三万石で城主になる。三代直樹のとき改易となり、寛保二年(1742)黒田直純が三万石で入封し幕末まで在封する。中世期ここに居城した里見氏が植えたといわれる樹齢四百年の老松が茂っている。大多喜藩二万七千石の城、大河内家。草創は徳川四天王の一人として武勇をうたわれた本多忠勝によってはじまる。元禄十六年(1703)相模甘繩(鎌倉市)より大河内正久が二万石で入封し幕末まで在封する。大河内の先祖に知恵伊豆の名で知られる松平信綱がいる。幕末の藩主正質は、十五代将軍慶喜に従い上洛。鳥羽伏見の戦いがおこり、その責任を問われて罷免され佐倉藩に幽居となる。佐貫藩一万六千石阿部家も城で最後の藩主は正恒です。

館山藩一万石稲葉家も城で、南総

里見八犬伝で有名な里見氏が築城。里見氏が久保忠隣失脚事件に連座し所領没収。それから、山城淀藩主稲葉正親の三男正明が天明元年(1782)に陣屋をかまえる。幕末の藩主正巳は逸材で慶喜に抜擢され講武所総裁、海軍総裁を務め、新田開発し枇杷栽培を奨励した。最後の藩主は正巳の養子で正善で新政府軍に協力した。

以上、五藩が城で以下は陣屋です。まずは、富津市の飯野藩二万石保科家。大阪城の警備を司どる大阪定番保科正貞が、一万七千石で立藩した。その後、分知したり、加増をうけたりで二万石になる。戊申戦争の際、本家筋の会津松平氏が新政府に抗戦したため、入京をゆるされず、足止めされるが、明治天皇に拝謁をゆるされている。他に、鶴牧藩一万五千石水野家、一宮藩一万三千石加納家、勝山藩一万二千石酒井家、多古藩一万二千石久松家。あとは、すべて一万石で、高岡藩井上家、小見川藩内田家、請西藩林家生実、藩森川家などです。

島田 隆 記